

インドの 5 つの州が大規模太陽光発電導入目標を発表¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット 新エネルギーグループ

New York Times によれば、この 5 ヶ月の間にインドの 5 つの州で太陽光発電導入目標が発表され、その合計は 6.15 GW に達する。内訳はアンドhra・プラデシュ州が 1,000MW、ラジャスタン州が 350MW、マドhya・プラデシュ州が 800MW、チャティスガール州が 1,000MW、タミル・ナドゥ州が 3,000MW。中央政府は 2010 年に太陽光発電導入計画、Jawaharlal Nehru National Solar Mission (JNNSM) を発表し、2022 年までに 20GW の太陽光を導入する目標を設定した。JNNSM は 3 つのフェーズに分かれ、フェーズ 1(-2013)で 1,100MW、フェーズ 2(-2017)で 4-5 GW、フェーズ 3(-2022)で 20GW を達成する計画である。

2012 年末の太陽光発電導入量は約 1 GW で計画は順調に進展していると言えるが、1 GW の内 750MW はラジャスタン州に建設されており、他の州での取り組みは遅れている。中央政府は JNNSM 計画の実施にあたって各州政府による取り組みに頼っており、新たに 5 つの州が導入目標を発表したことは国家目標達成に向けての大きな前進といえる。この状況をインドの新エネ情報誌 Panchabuta の主筆、Vineeth Vijayaraghavan 氏は「太陽光発電導入の推進力が中央政府から州政府へ移りつつある」と述べている。

しかしながらインド全体の財政状況は必ずしも良いとはいえず、これらの州において太陽光発電導入が計画通りに進展するか予断は許さない。4GW の発電能力が不足しているタミル・ナドゥ州は、去年の 10 月、2013-2015 年の間、毎年 1GW の太陽光発電プラント建設のテンドーを行うと発表した。New York Times によると太陽光発電事業者はこのテンドーに強い関心を示したが、電力の買い手である国営送電会社 Tangedco の財務状況が悪いため支払い条件が不明確で、このため太陽光発電事業者が建設資金を銀行から借りることが難しいこと、及び、用地の買収から発電開始（本年末）までの期間が 10 ヶ月と短いことから、応札された計画量は去年の 12 月時点で目標の半分に留まっている。また、太陽光発電調査会社 Bridge to India の Tobias Engelmeier 氏によると、応札には国の基準に満たないものが多く含まれており、実際に建設される発電能力は 150MW 程度に留まるとの見通しを示した。

一方、インドの太陽光発電事業に積極的な姿勢を示している事業者も存在する。Economic Times 紙によるとインドの有力財閥マヒンドラ・グループの太陽光発電事業者 Mahindra EPC は、今後 2 年間に 300 MW の太陽光発電プラント建設する計画を明らかにし

¹本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業(海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

ている。マヒンドラ・グループの副社長 Zhooben Bhiwandiwala 氏は、Rise Philosophy² の一環として、また、インドのエネルギー安全保障の観点から、再生可能エネルギー分野に進出することを選択したと述べている。Mahindora EPC は PR Fonroche 社(インドの PR CleanEnergy 社とフランスの Fonroche Energie 社の合弁会社)と合弁で、JNNSM フェーズ 1 の基でラジャスタン州に 5MW と 15MW の太陽光発電所建設プロジェクトを推進し、前者のプラントは昨年 12 月に完成し、後者は今月完成予定である。また、PR Fonroche 社は今後 3-4 年間で 200MW の太陽光発電プラントを建設する目標を明らかにしている。

州政府による再生可能エネルギーの長期買取り保証の欠如、FIT 買取価格が引き下げられるなど価格シグナルが弱いこと、及び、送電配電インフラの未整備がインドにおける再生可能エネルギー導入の障害となっていると言われてきた。今般、5 つの州で大規模な太陽光発電導入目標が発表されたことによって、今後、インドの太陽光発電導入がどのように進展するのか大いに注目される。

(ニュースソース:New York Times 1/9、Economic Times 1/9、India NY Daily News 2012/12/5)

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

² 総てのビジネス分野で世界最高水準を達成し、国際マーケットに進出するというマヒンドラ・グループのミッション